

1 実施日時 令和7年11月24日（月・祝）10時00分から16時00分まで

2 実施場所 静岡商業高校 グラウンド・体育館（静岡市葵区田町7-90）

3 実施内容

(1) タイトル 「静岡絆フェス～静岡ってこんなに素晴らしい！～」

(2) 内容

静岡絆フェスの開催

- ・静岡チャレンジカップというバスケットボール、サッカーの大会
- ・ハヤテベンチャーズ静岡の選手による野球教室
- ・きのいい羊達による体操教室
- ・静岡県内の飲食店や雑貨店を誘致したマルシェ

4 プロジェクトの概要

<テーマ設定>

近年、静岡県では人口減少や人口流出が課題となっており、3年間で約10万人の人口が減っている。そこで私たちは、静岡県の課題である人口減少を解決する対策として、「静岡絆フェス」を開催しようと考えた。

人口減少の原因として、県外の魅力の方が大きいのではと考えた。私たちも、3年生として自分たちの進路を考えていく中で県外に興味を持っている人が周囲に多くいることを実感している。このようなことから、今静岡に残っている人たちに、将来も残ってもらえるよう、この「静岡絆フェス」では参加する静岡の人たちのシビックプライドを育成したいと考えた。静岡に住む人たちが静岡の良さを再認識し、地元である静岡への誇りを持つことができれば、地元に残りたいという気持ちを芽生えさせることができる。

この「静岡絆フェス」が静岡の良さを再認識する場になってくれたら良いという思いで企画した。

<イベント実施までのプロセス>

5月：地域課題の発見 企画書提出

6月：誘致店舗の提案 ドリーム・プロジェクト採用決定

7月：店舗のアポイントメント Instagram 設営

8月：各企画担当決定

9月：誘致店舗の確定 各企画要項作成 参加チーム募集

10月：地域へチラシ配布

11月：ハヤテベンチャーズ静岡との打ち合わせ イベント開催



<イベント当日>

①マルシェ

sonmuru、あまのや繁田商店、Illuminar kichen、oimodo、カレー美術館 tiam、串焼亭、GOOD TIMING TEA、SunR、静岡医療専門学校、静岡商業商品開発ブース、Pine-Cone、ふじ亭、Bake shop mosh、ポティロン、yamayo 以上 15 店舗に参加していただいた。



②体操教室

きのいい羊達の講師の方を招き、4~6 歳程度の子供約 35 名と企画チームの高校生で体操教室を行った。誰かが 1 人にならないよう、本校硬式野球部の選手にも協力してもらい、子供と高校生が 1 対 1 で遊べるような環境を作った。



③静岡チャレンジカップ

バスケットボール（中学生の 3on3）や、サッカーのゲームを私たち高校生が準備・片付け・審判・チームの派遣依頼などすべてを行い開催した。

サッカーのゲームでは、小学校 3 年生までの試合が少ないことに目をつけ、1 チーム 7 人の小学校低学年を対象としたゲームを行った。普段、低学年の試合数が少ないことから、多くの保護者の方に訪れていただいた。



④野球教室

ハヤテベンチャーズ静岡の選手 4 名（篠原玲央選手、高取将之介選手、松永将大選手、松本陣選手）に参加していただき、小学校 6 年生以下を対象にした野球教室を行った。ピッチング、バッティング、守備を 4 選手と共にローテーションした。



5 感想

私たちは今回、静岡県的人口流出や人口減少という課題に着目して、それらを解決するためのイベントを企画した。近年、静岡県では人口の減少が顕著であり、私たちも進路と直面する中でその深刻さを強く実感していた。そこで、私たちは地元である静岡の良さを再認識してもらい、シビックプライドを育成することを目的としたイベントを開催することにした。その中で、県内の店舗を誘致したマルシェ、市内のチームを集めたサッカー・バスケットボールの大会、プロ選手による野球教室、子供向けの体操教室の 4 つのイベントを企画した。

結果として、想像以上に多くの人に訪れていただくことができた。イベント開催前に、地域の小学校や保育園、幼稚園にチラシを配ったこともあり、体操教室も野球教室も多くの親子連れに参加していただくことができた。しかし、その中でもいくつか課題が見つかった。まず、マルシェでは、開催すること自体が初めてで店舗によって配置を考えなければならないことに気付くことができず、当日は晴天で日差しが強かったこともあり、出店者の方々に迷惑をかけてしまった。本来は、溶けやすいものや直射日光を避けた方がよいものを販売している店舗は日陰に配置しなければならないものを日が当たる位置に配置してしまい、商品が廃棄となるケースや、十分に販売できなかった店舗が出てしまった。商品の特性を考えた配置を行う必要があると、事前に準備することの重要性を感じた。野球教室では、指示が上手く通らず、参加していただいた選手や、子供たちを混乱させてしまったため、開催前からスピーカーの準備や進行の仕方の確認などしておくべきだと感じた。また、全体でもチラシを配ったり Instagram で告知をしたにも関わらず、マルシェを訪れてくれた人の大半がサッカー大会や野球教室の参加者で、一般の人たちにはあまり来ていただけなかったような印象を受けた。一般の来場者への告知方法についても工夫が必要だ

った。このような課題はあったものの、その中でも参加していただいた店舗の方々や選手の父兄の方々から、「想像よりお客さんが来ていて凄かった。」「こんな大きなイベントだと思わなかった。」と声をかけていただくことがあった。そこで、出店交渉や、チーム募集など慣れないことばかりの中でも、イベントを開催することのできた達成感を強く感じることができた。

実際に初めて自分たちで一からイベントを企画し、運営してみて、自分たちが考えたものが形となることの達成感や大変さを学ぶことができた。また、このような経験は普段の高校生活から体験できるものではないため、次年度でも後輩たちにはぜひ経験してもらいたい。今回の貴重な経験を、企画メンバーそれぞれが将来で活かしていけたらよいと感じている。

また、今回静商絆フェスに参加していただいた各店舗の皆様や、サッカー・バスケットボールのチームの方々、きのいい羊達の講師の方、ハヤテベンチャーズの選手・スタッフの方々には多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。